十五夜ばな（しをん――さく科）

舊八月ノ十五夜ニハ必ズ開花スルヨリ土言起ル、土人ハ之ヲ好ンデ庭ニ植ウルハ雷ヲヨケル爲ナリト

コノ他ニ自然物ヲ利用スルコト多キモ此レ等ノ植物ハ土言ト和名ト一致セルニヨリ此處ニハ省ク事トシタ

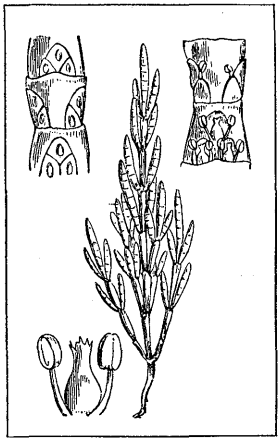
此處ニ掲ゲタ植物ノ寫眞ハ全部河口村附近ノ山ニテ撮影シタモノデアル

○あっけしさうノ新産地ヲ報ズ

北海道室蘭市武揚小學校　岩本秀信

一　緒言

あっけしさう（Salicornia herbacea L.―あかざ科）ノ分布ニ就テハ嘗テ本誌第四卷一號ノ口繪ノ牧野先生ノ記事ヲ讀ンデ第五卷七號ニ北見國サロマ湖ノ新産地ヲ報告シテ以來寡聞ナル私ハ未ダ其レ以外ニ産地ヲ知ラナカッタ、然ルニ昭和六年ノ夏圖ラズモ北見デ復新産地ニ逢ヒ、同年秋樺太旅行ノ際同地ニモ産スルコトヲ聞テ是ハ本誌ニ載セテ戴ク必要ガアラウト拙文ヲ認タメタ次第デアル



あっけしさう
(Salicornia herbacea L)
(BENTHAM)

二　發見ノ動機

昭和六年一月五日折カラノ猛烈ナ北國ノ吹雪ヲ衝イテ用事ノタメ遙ノ北見網走郡網走町字キナチヤシナイ、ト云フ能取湖（ノトロ湖）畔ノ一部落ニ岩本石松ナル叔父ヲ訪レタ、其ノ時ノ談話ニ能取湖畔ニ頗ル奇妙ナル草ガ生エル、葉モナケレバ花モ見エナイ、ソウシテ秋ニナルト眞赤ニナル、村人ノ一部ハ之ヲ石油草（せきゆさう）ト呼ンデヰル、其ノ理由ハ嘗テ

樺太デ働イテヰタ或人ガ何カ法律ニ觸レテ此ノ地ノ網走刑務所ニ來タ事ガアル、ソウシテ苦役中此ノ能取湖ニ作業ニ來テ此ノ草ヲ見タノデアルガ刑了ヘテカラ此ノ草ハ樺太ニモ某所ニ生エテヰテ其處カラ石油ガトレルカラ此ノ湖畔ニモ必ズ石油ガ出ルトテ發掘願ヲ出シタ、ソレデ監督局カラ網走刑務所ニ取調方ヲ賴ンダノデ今ハ刑務所ト其ノ人ト二ケ所デ試掘中デアルトノ話ヲ聞イタ

其處デ私ハコンナ草カトあっけしさうノ概圖ヲ書イテ見セルト全ク夫ニ違ナイ樣ダトイフ話デアルカラ私ハソノ夏ヲ約シテ別レタ

八月六日機會ヲ得テ此ノ地ニ旅行シ植物採取ヲ行ッタ、北海道ノ眞夏ノ日ガ照ッテ海邊スラ蒸サレル樣ナ激シク暑イ午後ニ此ノ湖畔ヲ探ッタ時せきゆさうナルモノガあっけしさうニ間違ナカッタ時ドンナニ喜ンダコトデアラウ、而シテ此ノ旅行デ一部ノ村民ハ又さんござうト呼ンデヰルコトモ知リ得タ

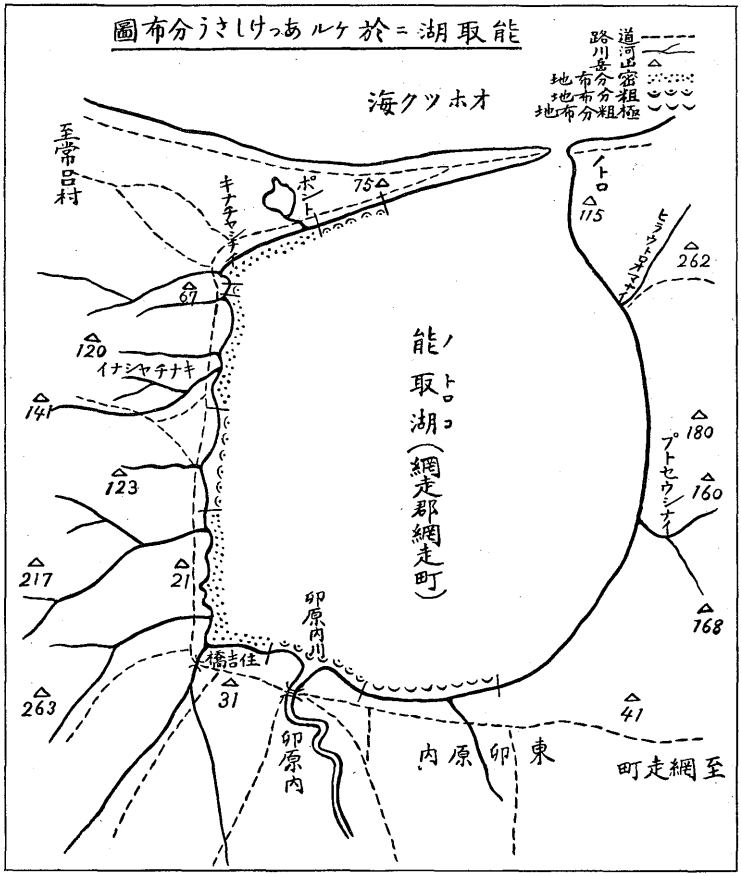
三　能取湖ノ分布

能取湖ハ北海道網走郡網走町ニ含マレ周圍三十粁餘、湖岸ハ概ネ遠淺デアッテ甚シイノハ五百米ノ沖デ僅ニ一・五米ヲ示ス處サヘアル、幾分湖ノ中央部カラ東側ヘカケテ深イ處ガアル（アイヌノ傳說ニハ昔此ノ湖ガ干上ッタ時ガアッテ其ノ時ハ此ノ部分ノミ川ノ如ク殘ッテヰタトノコトデアル）

四周ハ殆ド丘陵性ノ山ニ包マレ其ノ高サハ何レモ百米カラ二百米餘ノモノバカリデ是等ノ麓ハ往時湖岸ニ迫ッテ斷崖ヲナシテヰタラシイガ今ハ湖岸ガ退イテカ殆ド全湖砂濱ヲ持ッテヰル、湖岸ノ砂濱ハ砂土ニ腐植土ヲ混合シタ樣デ時ニ幾分粘氣ヲ持ッテヰル處モアル

此ノ湖岸ノ砂濱ヲ隔テタ部分一帶ニ繁茂シテ丁度垣ノ如ク連ナル林ガアリ此ノ外側ヲ東卯原內カラ、ポント近クマデ道路ガ通リ人家モ之ヲ挾ンデ建テラレテヰル

能取湖ニ注グ河ハ一番大キイ卯原內川（ウバラナイ川）ヲ始メ皆デ十四本餘アル、一番水量ノ大キイノハ卯原



内川デ後ハ豊富デハナイガ夏デモ涸レルコトハナイト云フ

あっけしさうノ分布ハ私ノ見タ所デハ東卯原内ノ湖岸カラ卯原内、キナチャシナイヲ經テポント（アイヌ語デ小サキ沼ナル意ヲ持ツ）迄ノ間約十四粁ノ長サニ亙ッテ生育シテヰル、其ノ幅大ナル處ハ二十米餘デ普通六米前後ガ一番多イ樣デアル、私ハ昭和六年秋九月六日厚岸郡厚岸町厚岸湖ノあっけしさう分布ヲ一寸見、且厚岸小學校大井訓導カラ同湖ノあっけしさう分布圖ヲ戴イタガ能取湖ノ夫ト比較スルト面積トイヒ生育狀態トイヒ前者ニ劣ルドコロカ遙ニ勝レテ純群落ヲ作ッテヰルモノト思フ、先年報告シテオイタ、サロ

マ湖ノ夫ニ比シテ勝ルコトハ勿論デアル

能取湖中ニハすがもガアル、湖畔ニハ先ヅあっけしさうガアリ、次ニ是ト混生シテヰルモノハしほまつば、ほそばはまあかざ、次ニえぞほそね、こうきやがら、時ニくろはりね、えぞみそはぎガ生育シテヰル、湖岸ヲ遠ザカルニ從ヒはまにんにく、うんらん、はまなんどう、みやこぐさ、ひろはくさふぢ、はまなす等ガ地ヲ匐ヒ或ハ叢生シテヰル、其ノ次ニハ林ガグルリト取取巻イテヰルガ樹種ハはんのき、やちだも、にはとこ、はるにれ、はしどい、時ニみづなら、くろうめもどき、かしは等ガアル、ポント、キナチヤシナイ、住吉橋附近ノ該草生育狀態ハ實ニ驚ク可キデ二十米平方一面ニ足ノ踏場モナイ程デ秋ノ樣子コソ見物デアラウ、其ノ他ノ場所ニ於テモ見出スニ困難ヲ感ズルコトハナイ

東側湖岸ニ於テハ東卯原内ヲ限度トシテ最早殆ド見出スコトガ出來ナカッタ、然シ最東北端ノ、トロ、ヒラウトロオマナイ、ノ地方ハ遂ニ探ル時間ガナカッタカラ其ノ有無ハ斷言出來ナイガ村人ハ此ノ地方ニハナイト言ッテヰル

此ノ分布區域ハ全般ニ亙ッテ何等保護サレテヰナイ、馬ハ多數放飼サレテ其ノ食害ニ委ネ人ハ歩イテ其ノ蹂躙ニ任セテヰル、厚岸湖ノ植物群落ト比シテサシタル遜色ナク寧ロ勝レル點アリト思ハル、此ノ地ヲ保護スル必要ハアリハセヌカト考ヘテヰル、私ハ一箇所ノ保護區域ヲモタヌ北海道東北部ニ原始植物群ヲ後世ニ遺スト云フ意味ヲ含メテ相當ニ種ノ豐富ナ原始林ヲ此ノ湖ノ附近ニ求メ其レト合セテ保護スル樣ニ法ノ手續ヲトッテモラヒタイモノト思ッテヰル

四　樺太ノ産地

右ノ中ニモ出テ來タ樣ニ私ハせさゆさうノ方言ヨリ樺太ニモアルトイフコトヲ思ッテヰタガ、昭和六年九月十一日大泊稚内間ノ連絡船亞庭丸中デ九月三日ノ樺太日日新聞ニ左ノ記事ヲ見出シタ卽チ「世界的珍草遠淵湖畔

から發見、廳水産課齋藤芳可技手が湖沼調査のみぎり見出す」トノ標題ノ下ニ宮部博士ニ御鑑定ヲシテ戴キあつけしさうナルコトヲ確定シタトノ事デ其ノ分布區域、生育數量ハ極メテ僅少ナル由ノ齋藤技手ノ報告文ガ出テヰタ、私ハ樺太旅行中時間ノ關係上見學出來得ナカッタノヲ遺憾ニ思ッテヰル

五　根室ニモアリト謂ハル

吉井義次博士ハ猶北海道根室國ニモアリト記サレテヰタ（天然記念物調査報告書）

以上三ケ所ヲ御知ラセシテ（根室ノ何處カハ判然セヌケレドモ）あっけしさうノ本邦産地ヲ七ケ所トスル次第デアル

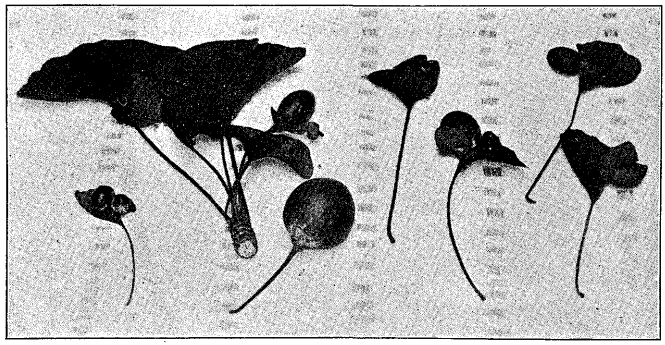
卽チ四國二ケ所、北海道四ケ所、樺太一ケ所、猶能取湖ノ該草ハ牧野博士、本田博士ニ御送リスル豫定デアル

六　あっけしさうノ生態學上ノ一考察

以上私ハ今マデ見タ三ケ所ノあっけしさうノ生育狀態及ビ同一湖中ニ於ケル分布ヲ見テ何カ其處ニ該草ノ生育ヲ支配スル外部條件ガアリハセヌカト年來カラ思ッテヰタガ今回理學界二十九卷七月號十三頁ノ津田理學士ノ「海岸植物ニ關スル生態學的實驗」ノ中ニモンフォルノ研究ニヨルトあっけしさうデハ海水ノ 1/2 乃至 3/4 ノ濃サデ最モ生長ガヨク之ヨリ淡イ所、又濃イ所デハ幾分ヨクナイトイフ表ヲ見テ是ガあっけしさうノ分布生育ヲ左右スル第一條件デアラウトノ考想ニ達シタ、而シテ此ノ最適ナル濃度ノ海水ヲ自然ハ湖水中ニ流レコム淡水河口ノ附近ノ地ニ於テ作クル、然シアマリニ淡水量多イコトモ不可デアルカラ川口デアッテモ必シモヨク繁茂スルトハ言ハレヌ、第二ノ條件トシテハ土質デアラウト思フガ此方面ハ未ダ調査不充分デ何トモイハレヌ、併シ多分此ノ二條件ガ主ナルモノデアル樣ダ

此ノ考ノ下ニ三個所ノ分布ヲ調ベテ見ルト厚岸湖ノ分布ハ牡蠣島、眞龍ノ內側（別寒別川ガ此ノ岸ヲ洗フモノト解サル）東梅川、時代川（トキタイ川）附近ニ產シ又サロマ湖ノ分布ガ芭露川、ライトコロ川ニ限ラレ西湖岸

秋田縣ニ在ル御葉つきいてふ



ふていきつき葉御
産村館東郡田秋北縣田秋

ガ小サイ川ハアレドモ水量少ク且砂地デナク大岩石多ク土壤ヲ形成セヌ等カラ分布生育セズ（サロマ川口附近ニハアルカト思フガ隈ナク踏査シナイカラ何トモ言ヘヌ）又今回發見ノ能取湖ノ西湖岸ニ多ク東海岸ニ殆ドナイコトモ當然デアルト說明出來ル四國樺太ノ分布モ多分此ノ條件ノモトニ分布シテヰルモノデアラウト信ジテヰル、以上大膽ナル考察ヲ試ミテ御叱正ヲ願フモノデアル

（昭和六年十一月二十二日記ス）

○秋田縣ニ在ル御葉つきいてふ

秋田縣北秋田郡山瀨村越山　松田孫治

昭和六年十月二十七日偶然ニモ或兒童ノ談ニヨッテ秋田縣北秋田郡東館村ニ御葉つきいてふノ在ルコトヲ確メタ、自分ハ未ダコレガ奥羽地方ニ產スルコトヲ知ラナカッタカラ以下之ニ就テ述ベヨウいてふハ間違デいちょうナリトイフ學者モアルトイフガココデハいてふトシテ置ク

右東館村ノモノハ樹高一三・二〇「メートル」胸高周圍一・八五「メートル」地上一・九五「メートル」ニ於テ略南北ニ幹ガ二分シテヰル、東館尋常高等小學校庭ノ雄木ヨリ推シテソノ樹齡ハ五十年位ト考ヘル、本いてふノ由來ハ現在ノトコロ不明デアル

葉上實ヲ有スルモノ稍々稀レデアル、多クハ幹部及太キ枝上ノ短極ニ着生